

2015 年度 センター試験 倫理（本試験） ワンポイント解説

第1問	問1	②エスノセントリズムは自文化を中心に他文化を見る立場なので、エスノセントリズムを支持すると他国の文化的背景を理解するのは難しくなる。③対人地雷禁止条約は、中国は未調印なので、「中国を中心に」が間違い。④リプロダクティブ・ヘルス/ライツは、女性の性と生殖についての健康ならびにそれを守る権利であり、雇用機会均等を目的とするものではない。
	問2	①フロイトの防衛機制の一つ。③歴史家のアリエスの指摘である。④アメリカの心理学者カイリーのことである。
	問4	アはヘーゲルで、ウはマルクスである。
	問5	a) 古代ギリシアの四元徳には、知恵・勇気・節制・正義がある。c) ロールズの正義論は、功利主義を批判するものであるが、これは少々難しかったかもしれない。
	問6	「拡大家族が増加する」が誤り。核家族はほぼ横ばい状態であり、単身世帯が急増中である。
	問7	単純な資料読み取り問題であるが、叙述が曖昧なこともあって判別しづらい。
	問8	①「勝手な治療を行う」との記述は、本文にはない。②引用文の趣旨は、医師リウーが人類の救済より目の前の人間の健康を重視することであり、聖職者が他者の救済を熱望して「自己の犠牲を二の次にしてしまう」ことではない。③「宗教者が唱える愛は…抽象的観念に向けられた」が間違い。
	問9	②職業召命説を唱えて勤勉を主張したのはカルヴァンである。③エラスムスは、教会の腐敗した現状を批判したので、教会の現状の維持は主張していない。
	問10	①B は、価値観は相対的であり時代ごとに変化するということは、「盛者必衰の理」とは異なる。②A は、「多少の犠牲もやむを得ない」とは述べていない。③B は、価値観は相対的で時代ごとに変わるとし、「大切なのは、遠い未来じゃなく、生きている人間」とし、社会規範の相対性と他者との具体的関係の尊重に相当する。また A は、「場当たりのな助けだけでは不十分」で、「万人が幸せな、理想の社会を作る」ことを主張し、「あるべき未来を描く」べきだとしており、社会的対応の必要性、未来への責任、理想社会の構築に当たる。④は、人権尊重はいつの時代も立証されてきたというが、リード文では「歴史は、人権尊重という正義を実現していく」とあるので合わない。
	第2問	問1
問2		①は孔子、②は朱子、④は王陽明である。③道は万物が等しい境地というのは、荘子の「万物斉同」をいう。
問3		①「ムハンマドが神の代理人として…裁き」が間違い。最後の審判で人間を裁くのは神アッラーである。②「神の像に向かって礼拝を行う」が間違い。イスラム教では、偶像崇拜は徹底して否定されるので、神の像は存在しない。③「ムハンマド以降も預言者を遣わす」が間違い。ムハンマドはメシアではなくて最後の預言者である。④ムハンマドは預言者であり、預言者は人間であるので、神格化の対象とはならない。
問4		a 十戒は、神が預言者モーセに与えたものである。b『告白』を書いたのはアウグスティヌスである。c アウグスティヌスは神の恩寵を主張した。

	問 5	アは、「その掟を全うすることによって罪を贖う者は救われる」が間違い。キリスト教では、贖罪とはイエス＝キリストが人類の身代わりとして十字架上で犠牲になったことをいう。ウは、「聖職者と一般信徒」が間違い。イスラム教では、聖俗の区別がなく、聖職者は存在しない。
	問 6	①「善は人によって異なる」が間違い。善の相対性を主張するのはプロタゴラス。②何であるかを説明する原理は質料ではなく形相である。③「すべては現実態から可能態へと発展する」が間違いで、可能態から現実態へと発展する、が正しい。
	問 7	①「どのような対話者の魂をも育て」が言い過ぎである。③「書かれた言葉は…筆者の考えを正しく伝える」が間違い。④「書かれた言葉は…時とともに説得力を失い」が本文に記述なし。
	問 8	苦諦とは、人生はすべて苦しみであるということであるから、①は間違い。集諦とは、苦の原因は迷妄と執着にあるということであるから、②は間違い。滅諦とは、迷妄を離れ執着を絶てば悟りに至るということであるから、④は間違い。道諦とは、悟りに至る実践的方法には八正道がある、ということであるから、この点でも④は間違い。
	問 9	リード文に従えば、荘子もキリスト教やイスラム教でも、言葉では道や神の本質は語り得ないとし、①「言葉で真理そのものを語ることを可能にし」や、②「探究対象を言葉で語り得るものに限定」は不適當である。また、最終段落には「言葉を語ることが人間であることと分かち難く結び付いている」とあり、④「言葉に頼らず」とあるのも不適當である。
第3問	問 2	①「鎮護国家の考え方を否定」が間違い。最澄は鎮護国家のために天台宗を開いた。③「鑑真が伝えた正式な授戒儀式に立ち戻るべき」が間違い。鑑真の小乗系授戒儀式に対し、最澄は大乗系授戒儀式を主張した。④『三教指帰』は空海の作なので間違い。
	問 3	アは、「自力で悟ろうとする悪人」が間違い。自力で悟ろうとするのは善人。イは、「悟りという目的に達する」が間違い。坐禅そのものが悟りであって坐禅は悟りの手段ではない。
	問 4	②『聖教要録』は山鹿素行、③『翁問答』は中江藤樹、④『論語古義』は伊藤仁斎である。
	問 5	難問だが、消去法で解ける。①「儒学的な人倫において重んじられる」のは義理であり、「恋人に対する」のは人情である。②「勤勉や儉約の意義を否定」が間違いで、肯定が正しい。④契沖ではなく本居宣長が正しい。
	問 6	ア「上下定分の理」は林羅山である。イ「自然世」は安藤昌益である。ウ「天道と人道」は二宮尊徳である。
	問 7	福沢諭吉の『学問のすゝめ』では、既存の知識を疑って真実を探求すること、各地域の習慣は急には変えてはならないこと、西洋文明が優れているとしても盲信してはいけないこと、東西比較をした上で取捨選択すること、などを説いている。②は、習慣を速やかに変えるべきだということが不適當である。③は、懐疑自体を疑え、という箇所が引用文には見当たらない。④は、自国の習慣を疑ってはならない、という箇所が不適當である。
	問 8	①「主観のみが確か」の箇所が不適當である。②「名のある芸術家」の箇所が不適當である。④近代批評の確立者は小林秀雄である。
	問 9	①「忠実に模倣」とあるが、リード文において「忠実に真似ようとした」のは、第2段落の古代人だけである。②「知的な営みの無力さをわきまえ」とあるが、無力さと向き合ったのは、第2段落における末法時代の思想家だけである。③「近代以降の学問をよりどころとして、よき生を求める」とあるが、リード文において近世以降に言及しているのは第3段落と第4段落だけであり、本文の趣旨に合致するとは言えない。④困難から目を背けず、よりよく生きるための学びに努力する、というのは、リード文の主張ともなる第1段落と第5段落の内容である。

第4問	問1	②ルネサンス期には古典研究が流行したが、古代の神々を中心とした神話的世界観が復活したわけではない。キリスト教は決して否定されなかった。
	問2	帰納法に着目して、③がベーコンの記述であると確認する。
	問4	コントは三段階の法則を唱えた。人間の知識は神学的段階から形而上学的段階を経て実証的段階に至って完成する。また、それにともなって社会も進歩し、軍事的社会から法律的社会を経て産業的社会へと移行する、とした。①はデューイ、②はサルトル、③はヘーゲルである。
	問5	ルソーは一般意志が有名である。①は後期ハイデッガー、③はミル、④はロックである。
	問6	カントの『純粹理性批判』『実践理性批判』『判断力批判』の三大批判書は有名である。bの感性は少々難しかったかもしれない。
	問7	イの「言語ゲーム」はウィトゲンシュタインのキーワードであるから、明らかに間違いである。
	問8	引用文によれば、啓蒙（すなわち科学）とは、呪術から人間を解放し、神話を解体し（神話も啓蒙の産物であるが）、知識を空想の代わりとすることであり、人間が自然の認識者から自然の支配者へと移ることであり、それは独裁者が人間を支配する態度と変わらない。①は、「科学は事物の認識を目指すのであり、人間を支配するわけではない」の箇所が不適當である。③は、「神話の基底にある説明の機能に関して積極的に評価」とあるが、引用文には「かつて神話が与えていた説明は、無効を宣告される」とあるので、不適當である。④は、「科学者は、独裁者と協力して」の箇所が不適當である。
	問9	①の危機管理の徹底はリード文の趣旨とは異なる。③は、「科学なしの世界にいったん戻って」とあるが、最終段落に「理性を全面否定することはできない」とあるので、不適當である。④は、「これまでと同様に科学技術を信頼しつつ」とあるが、最終段落に「科学技術の制御も含め、理性のあり方を再検討し」とあるので、不適當である。